

2015年9月より
新しい連絡先になりました！！

中部教育学会会報

第48号 (2015年9月発行)

中部教育学会事務局

〒464 - 8601

名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科

山下廉太郎

Tel/Fax : 052 - 789 - 5057

E-mail : yamashita.rentarou@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

学会ホームページ <http://chubu-kyoiku-gakkai.org/>

郵便振替 00850-2-82587 *他行からの振込みは(ゆうちょ銀行〇八九店・当座・口座番号 0082587)をご利用下さい。

《新会長挨拶》

このたび前任の中嶋哲彦会長の後を受けまして、新しく会長にご選出いただきました。まったく予想していなかったことで、たいへん戸惑っております。しかし、とにかく選ばれました以上は、本学会の発展のために力を尽くして参りたいと考えております。

さて、本年度の大会シンポジウムでも取り上げられました「道徳」の教科化を始め、教育をめぐる昨今の改革動向には、予断を許さない、さまざまな問題が含まれています。教育(学)研究には、その動向をきちんと見極め、その意味を検討し、社会に発信していくことが求められているといえます。また、18歳人口の減少が始まる「2018年問題」や、国立大学の人文・社会系学部再編問題など、教育(学)研究者の多くにとっての足場である大学・短期大学等も大きな試練にさらされています。

これらの課題に立ち向かい、試練を乗り越えて行くためにも、私たちが知恵を出し合うことが必要です。本学会がそうした知恵を結集し、さらにブラッシュアップしていく場としての役割を十分に果たしていくためには、まずは学会としての地道な活動、具体的には大会(個別発表とシンポジウム)の開催と機関誌発行という二つの柱を堅持し、その一層の充実を図っていくことが大切だと思っております。

改めて申し上げるまでもありませんが、学会というのは、スポンサーがついているわけでもありませんし、またどこかの会社が運営しているわけでもありません。本学会は、中部地域における研究者や教育者など、教育に関心をもつ方々によって自主的に組織・運営されてきたもので、自由な意志に基づいて参加された会員のみなさまによって支えられています。会員お一人お一人のご援助・ご協力なしには、一日も成り立っては参りません。どうか今後とも本学会の運営に一層のお力添えを賜りますよう、心よりお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。



吉川卓治 (名古屋大学)

《大会報告》

去る2015年6月20日(土)に、名古屋大学で開催されました中部教育学会第64回大会を、お陰様で無事に終了することができました。大会には、一般参加者29名を含む105名のご参加がありました。このように多くの方にご参加いただきまして深く感謝申し上げます。会員の皆様、そして学会事務局の皆様のご協力に謹んで御礼申し上げます。

午前中の自由研究発表では、6分科会に分かれて、26件の多岐にわたる興味深い研究発表がなされました(なお、申込みは28件でしたが、2件キャンセルがありました)。各会場ともに活発な議論が交わされ、充実した時間となりました。その後の理事会・総会では、会務の報告と、決算案・監査報告、活動方針案、予算

案の審議が行われ、承認されました。次期大会開催校として中部大学が紹介され、豊田ひさき会員よりご挨拶がありました。

午後には公開シンポジウム「道德教育を考える」が行われました。ご登壇頂きました元立教大学・藤田昌士氏、愛知教育大学・山口匡氏、元岐阜大学・吉田千秋氏、愛知教育大学・鈴木健二氏には、限られた時間の中でのご報告となりましたが、子どもたちが道德の授業を「押し付け」と感じてしまう要因などの重要な論点をご提示いただきました。この場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。また、フロアからも、道德教育の評価の問題や、障害者の教材化に関する問題などの論点を出して頂き、今日のアクチュアルな課題について多方面から真摯に議論を深めることができました。懇親会には34名のご参加があり、相互の親睦を深めることができました。

実行委員会事務局長自身が昨年末に本学会に入会し、本学会大会に一度も参加したことがなかったにも関わらず事務局長を仰せつかったため勝手がよく分からなかったことなどもあり、大会運営に当たっては多々至らぬ点もあったかと存じますが、皆様のお力添えをいただいたことで第64回大会を盛況の内に終えることができました。実行委員会一同、心より御礼申し上げます。

第64回大会事務局 江頭智宏（名古屋大学）



《理事会報告》 2015年度第1回理事会（2015年6月20日開催）

場所：名古屋大学教育学部大会議室

出席者：吉川卓治（名古屋大学・新会長）、中嶋哲彦（名古屋大学・前会長）、竹川慎哉（愛知教育大学・理事）、山本理絵（愛知県立大学・理事）、藤原直子（椋川女学園大学・理事）、高橋正教（至学館大学・理事）、豊田ひさき（中部大学・理事）、柴田好章（名古屋大学・理事）、上田敏丈（名古屋市立大学・理事）、石川英志（岐阜大学・理事）、佐藤年明（三重大学・理事）、藤井基貴（静岡大学、理事）、森透（福井大学・理事）、広瀬信（富山大学・理事）、山下廉太郎（名古屋大学・新事務局長）、川口洋誉（愛知工業大学・前事務局長）、松原信継（愛知教育大学・選挙管理委員会）、坂本将暢（愛知工業大学・選挙管理委員会）

（報告事項）

1. 会員の状況および会費納入状況

【理事会資料1】の通り、事務局より報告がなされました。

【理事会資料1】会員の状況および会費納入状況

- (1) 会員数 261名（2015年6月18日現在）
- (2) 2014年度分までの会費完納率 82.1%（216名/263名）
*2013年度分 78.3%/2012年度64.7%/2011年度50.0%
- (3) 2015年度分までの会費完納率 48.4%（128名/263名）
- (4) 2014年度の新入会・退会・除籍
・新入会 19名 ・退会 5名 ・除籍 8名

2. 事務局活動報告

【理事会資料2】の通り、事務局より2014年度第3回理事会（2015年2月15日）以降の事務局活動の報告がなされました。

【理事会資料2】前回理事会以降の学会事務局活動報告

2015. 2. 16. 第3回理事会・紀要編集委員会の議事録作成・送付
日本福祉大学図書館より、新キャンパス図書館への「中部教育学会紀要」寄贈の依頼
→15号より2部寄贈
2015. 3. 3. 事務局作業（会報47号発送、アルバイト1名）
2015. 3. 5. 事務局作業（会費納入処理・紀要発送、会員情報

- 更新)
2015. 3. 9. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、会員情報更新)
2015. 3.11. 教育関連学会連絡協議会運営委員の不在者投票を送付
2015. 3.14. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、会員情報更新)
2015. 3.18. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、会員情報更新)
2015. 3.23. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、会員情報更新)
2015. 3.27. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、会員情報更新)
2015. 4. 3. 名古屋大学にて大会実行委員会に大会運営費を渡す
2015. 4. 6. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、会員情報更新)
2015. 4. 9. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、会員情報更新)
2015. 4.12. 選挙管理委員会の指示の下、会長選挙等関係文書の発送 (アルバイト 1 名)
2015. 4.13. 事務局作業 (会費納入処理、会員情報更新)
2015. 5. 1. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理)
2015. 5. 4. 事務局作業 (新入会処理、会員名簿作成・発送)
2015. 5.15. 事務局作業 (新入会処理、アルバイト 1 名)、選挙管理委員会開票手伝い・立ち会い、理事会への選挙結果速報 (メール)、名古屋市立大学所属会員に理事・幹事選出お願い。
2015. 6.11. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、大会準備、アルバイト 1 名)
2015. 6.17. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、大会準備)
2015. 6.19. 事務局作業 (会費納入処理・紀要発送、新入会処理、大会準備)

3. 2014 年度学会活動報告

【理事会資料 3】の通り、事務局より報告がなされました。

【理事会資料 3】2014 年度学会活動報告

(1) 第63回大会 (愛知教育大学) の開催

大村恵実行委員長のもと、第63回大会を愛知教育大学において開催した。95名の参加、34件の自由研究発表があった。午後には「教科書改革を検証する」をテーマに公開シンポジウムが開催された。

- (2) 中部教育学会紀要第14号の刊行、第15号の編集 (第63回大会にて刊行)
- (3) 理事 (2012-2014年度) の変更
静岡大学選出の理事が山崎保寿会員から藤井基貴会員に交替した。
- (4) 学会情報の発信
会報第46・47号の発行、学会ホームページによって、学会情報の発信に努めた。会報では「わたしの教育学研究」を通して、会員からの情報発信の機会を設けた。
- (5) 次期会長選挙・理事選出のスケジュール等の確認
次期会長選挙および県選出の理事選挙に関わる選挙管理委員会 (松原信継会員・坂本将暢会員) の発足が承認され、選挙スケジュールが確認された。新理事会発足に当たって、会員数が減少している岐阜大学、金沢大学、福井大学からは理事を選出せずにそれぞれ岐阜県、石川県、福井県から各1名の理事を選出すること (各県所属会員の直接選挙の実施) が決定された (規約第6条)。一方で、会員数が増加している富山大学、名古屋市立大学より各1名の理事を選出することが確認された。
- (6) 教育学関連学会連絡協議会への参加
引き続き、情報収集や他学会との連携を進める観点から、本学会として同協議会に加盟をしている。
- (7) 現在の教育課題に関する公開シンポジウムの開催
現在の教育課題に応ずるテーマを設定して、公開シンポジウムを開催することを検討しましたが (2014年度学会活動方針)、開催に向けた十分な用意ができなかったため開催は断念した。

4. 紀要編集委員会活動報告

【理事会資料 4】の通り、事務局より報告がなされました。

【資料 4】2014 年度編集委員会活動報告

(1) 紀要編集委員会の開催

第 1 回 (2014.12.7.) 特集原稿の依頼執筆者の選定、査読委員の決定

第 2 回 (2015.2.15.) 投稿論文の掲載可否の判定

第 3 回 (2015.4.23.常任) 再査読の投稿論文の掲載可否の判定

- (2) 投稿論文等 (研究論文・研究ノート・実践報告) の募集
会報第 46 号 (2014 年 9 月 15 日発行) にて、投稿の募集を行い、同年 11 月 30 日の締め切りまでに、研究論文 4 本、研究ノート 1 本、実践報告 2 本の投稿があった。査読委員の査読結果をもとに、編集委員会にて厳正な審議を行い、紀要第 15 号への研究論文 1 本・研究ノート 1 本の掲載が決定した。掲載が決定した研究論文・研究ノートは下記の通りである。

- ・北島信子会員（桜花学園大学）「東井義雄の教育実践における宗教性の一考察」
- ・半澤幸恵会員（名古屋市立大学大学院）「保育所における幼児連絡帳にみる保育者と保護者の関係変容プロセス」

(3) 特集「中部の教育Vー過去・現在・未来ー」・第 63 回大会公開シンポジウムの掲載

(審議事項)

1. 新入会

2015年2月15日から6月20日まで期間に以下の方から新入会届の提出と2015年度会費の納入があり、入会が承認されました。なお、「■■■■■ (■■■■■)」さん・「■■■■■ (■■■■■)」さんについては理事会時点で会費納入がありませんでしたので入会は仮承認としております。今後、入金を確認した時点で承認とさせていただきます。

2015. 4. 1. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.15. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.15. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.20. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.20. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.20. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.27. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.28. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 4.29. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 5. 8. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 5.25. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■
2015. 6. 8. ■■■■■ (■■■■■)
／推薦者：■■■■■・■■■■■

(敬称略)

2. 退会

2015年2月15日から6月20日まで期間に

5回目となる特集では、佐藤廣和会員（三重大学名誉教授）から寄稿を得た。第63回大会公開シンポジウムについては、吉田氏、三橋氏、広瀬会員の報告を掲載した。裕氏、日本福祉大学・三橋広夫氏、富山大学・広瀬信氏には、限られた時間の中でのご報告となりましたが、重要な論点をご提示いただいた。なお、吉田氏、三橋氏は非会員である。

以下の会員から退会の申し出があり、2014年度までの会費納入も確認され、退会が承認されました。

- (■■■■■) ■■■■■ (■■■■■)
■■■■■ (■■■■■) ■■■■■ (■■■■■) ■■■■■ (■■■■■)
■■■■■ (■■■■■) ■■■■■ (■■■■■)
■■■■■ (■■■■■) ■■■■■ (■■■■■)

(敬称略)

3. 2014年度決算案および監査報告

【総会資料6】(7ページ掲載)の通り、事務局より2014年度決算案が報告され、承認されました。合わせて、中山弘之会員（愛知教育大学）・田中秀佳会員（名古屋経済大学）から6月11日、18日にそれぞれ会計監査を受け、会計処理が適正に処理されていることを確認していただきました。なお、会計監査の両会員が校務により欠席であったため、替わって事務局より会計監査報告をお伝えしました。

4. 2015年度予算案

【総会資料7】(8ページ掲載)の通り、事務局より提案がされ、承認されました。出席者からは、実質の支出の計(905,000)が大きくなっているため、今後の財政支出の切り詰めを検討するよう要望が出ました。

5. 会長選挙の結果について

【総会資料4】(7ページ掲載)の通り、松原信継会員（選挙管理委員会）より、会長選挙ならびに一部県選出理事選挙の結果が報告され、承認されました。

6. 新事務局体制について

吉川卓治新会長より会長就任の挨拶をいただいたのち、山下廉太郎会員を事務局長とし、広川由子会員（愛知江南短期大学）、川口洋賢前事務局長（愛知工業大学）をそれぞれ事務局員とすること

が提案され、承認されました。それに伴い、学会事務局を愛知工業大学から名古屋大学教育学部に移動させることも承認されました。

加えて、豊田ひさき理事を紀要編集委員長とし、吉川会長、藤原直子理事、柴田好章理事を常任編集委員とすることが提案され、承認されました。なお、編集委員会は理事によって構成されます。

7. 2015 年度学会活動方針

【理事会資料6】の通り、承認されました。

8. 総会議案および議長選出について

事務局より総会議案が提案され、承認されました。また、総会議長団の候補者を確認しました。

9. 第 65 回大会（2016 年度）の開催校について

第 65 回大会を中部大学にて開催することが確認されました。

新理事会・事務局の体制(2015-2017 年度)について

大学等	理事	幹事
会 長	吉川 卓治 (名古屋大学)	
愛 知 教 育 大 学	竹川 慎哉	大村 恵
愛 知 県 立 大 学	山本 理絵	
椛 山 女 学 園 大 学	藤原 直子	
至 学 館 大 学	高橋 正教	丸山 真奈美
中 部 大 学	豊田 ひさき	橋本 美彦
名 古 屋 大 学	柴田 好章	内田 良
日 本 福 祉 大 学	亀谷 和史	
名 古 屋 市 立 大 学	上田 敏丈	山本 聡子
岐 阜 県	石川 英志	
三 重 大 学	佐藤 年明	森脇 健夫
静 岡 大 学	藤井 基貴	石原 剛志
信 州 大 学	安達 仁美	伏木 久始
福 井 県	森 透	
富 山 大 学	広瀬 信	笹田 茂樹
石 川 県	浅野 秀重	
事 務 局	山下 廉太郎 (事務局長、名古屋大学) 川口洋誉 (事務局員、愛知工業大学) 広川由子 (事務局員、愛知江南短期大学)	

(敬称略)

(川口洋誉、事務局・愛知工業大学)

≪総会報告≫////////////////////////////////////

2015年度総会（2015年6月20日開催）

場所：名古屋大学教育学部大講義室

中部教育学会 2015 年度総会は、2015 年 6 月 20 日（土）、中部教育学会第 64 回大会会場となった名古屋大学において、13 時 30 分から開催されました。

総会を開催するに先だち、吉川卓治大会実行委員長（名古屋大学）と中部教育学会を代表して中嶋哲彦会長（名古屋大学）からご挨拶をいただきました。その後、総会議長団に松田武雄会員（名古屋大学）と藤原直子会員（椋山女学園大学）が選出されました。2015 年 6 月 20 日時点での会員数は 261 名で、総会定足数は 87 名、出席者は 28 名であったため、定足数を満たしておらず、本総会は仮総会として開催されました。

1. 報告事項

川口洋誉事務局長（愛知工業大学）から、(1) 会員の状況および会費納入状況（【総会資料 1】）、(2) 2014 年度の学会活動（【総会資料 2】）について報告が行われました。つづいて紀要編集委員長の吉川卓治理事（名古屋大学）から (3) 2014 年度の紀要編集委員会の活動について報告（【総会資料 3】）が行われました。

松原信継選挙管理委員（愛知教育大学）より、(4) 会長選挙・理事選挙の開票結果報告が行われました（【総会資料 4】）。これを受けて吉川卓治新会長より (5) 新理事会・事務局体制が報告され、新紀要編集委員長の豊田ひさき理事（中部大学）と新事務局長の山下廉太郎会員（名古屋大学）が紹介されました。

2. 審議事項

つづいて、3 件の議事に入りました。

①2014 年度決算案および監査報告【総会資料 6】

川口前事務局長より、2014 年度決算案について説明があり、校務のため欠席であった中山弘之会員（愛知教育大学）・田中秀佳会員（名古屋経済大学）に代わり会計監査報告を行いました。審議の結果、仮承認されました。

②2015 年度予算案【総会資料 7】

川口前事務局長から、2015 年度予算案について説明があり、審議の結果、仮承認されました。

③2015 年度学会活動方針【総会資料 8】

川口前事務局長から、2015 年度学会活動方針について説明があり、審議の結果、仮承認されました。

【資料 8】2015 年度学会活動方針

- (1) 会員の拡大・会費納入率の向上に努める。
- (2) 学会紀要の充実を図る（自由投稿の質的・量的充

実、特集の継続）。

- (3) 会報・ホームページなどを通じた学会の情報発信、会員間の情報交流を促進する。
- (4) 幅広い会員の意思を反映した理事選出のあり方について検討を進める。
- (5) 学会として現在の教育課題に向き合う取り組みを積極的に行う（紀要特集、公開シンポ開催、教育関連学会連絡協議会への参加等。公開シンポについては、日本教育学会中部地区との共催もしくは独自開催を検討する）。

すべての議事終了後に、吉川新会長より次回第 65 回大会を中部大学で開催することの報告があり、第 65 回大会実行委員長の豊田ひさき理事よりご挨拶がありました。

3. 本総会決定事項の取扱いについて

本総会は、本学会規約に定められている定足数（会員の 3 分の 1 以上）に達しませんでした。それゆえ規約第 7 条第 2 項にもとづき今総会は仮総会となり、そこでの決定事項は会員に告知し 2 ヶ月をまって会員から異議がないときは、総会で決定されたものとみなすこととなります。

したがって、会報本号に掲載しました今総会の報告および配付資料をご覧いただいた上で、今総会決定事項につきましてご異議がある会員は、2015 年 11 月末日までに文書により事務局にその趣旨をお知らせください。

（川口洋誉、事務局・愛知工業大学）

【総会資料4】

2015年6月20日

中部教育学会会員各位

2015年度選挙管理委員会
松原信継・坂本将暢

中部教育学会 2015 年度会長選挙等開票結果について

この度実施されました会長選挙につきまして、2015年5月15日に開票作業を行いました。その結果、吉川卓治会員（名古屋大学）が会長に選出されましたことをご報告いたします。

また、会長選挙と合わせて、会員5名以上が所属する大学がない県（岐阜県、石川県、福井県）からの選出理事の選挙を行いました。同じく5月15日に開票作業を行いましたところ、その結果、岐阜県理事に石川英志会員（岐阜大学）が、石川県理事に浅野秀重会員（金沢大学）が、福井県理事に森透会員（福井大学）が、それぞれ選出されましたことをご報告いたします。

選挙事務につきましては、有権者名簿等の書類作成、発送などで学会事務局より多大なご協力を得ましたことを深くお礼申し上げます。

【総会資料6】【総会資料7】は掲載を省略いたしました。

《学会事務局からのお知らせ》////////////////////////////////////

1. 学会事務局移転のお知らせ

9月をもちまして学会事務局が移転いたしました。下記の通り、連絡先が変更となりますので、会員の皆様ご注意ください。

〒464 - 8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 山下廉太郎

Tel/Fax : 052 - 789 - 5057

E-mail : yamashita.rentarou@b.mbox.nagoya-u.ac.jp

2. 2015 年度会費の納入をお願いいたします

2015 年度会費 (3000 円) の納入を受け付けております。 他行からの振込は、(ゆうちょ銀行〇八九店・当座・口座番号 0082587) をご利用下さい。

3. 訂正とお詫び

①中部教育学会第 64 回大会『発表要綱集録』および大会プログラムの中で、所属の誤記がございましたので、下記の通り訂正をいたします。大橋基博会員にご迷惑をおかけいたしましたこと、深くお詫び申し上げます。

(誤)

【第 2 分科会】(第 2 講義室)

司会 : 大橋 基博 (名古屋芸術大学)

(正)

【第 2 分科会】(第 2 講義室)

司会 : 大橋 基博 (名古屋造形大学)

②中部教育学会紀要 15 号において、「投稿規程」の一部が落丁しておりました。このことに対しまして、会員の皆様に深くお詫び申し上げます。

4. 中部教育学会第 64 回大会『発表要綱集録』および公開シンポジウムのレジュメ配付のご連絡

『発表要綱集録』および公開シンポジウムのレジュメに若干の残部がございますので、配付をご希望されます方は事務局へご連絡ください。

(山下廉太郎、事務局・名古屋大学)

《中部教育学会紀要第 16 号原稿募集》////////////////////////////////////

「中部教育学会紀要」第 16 号の原稿募集

編集委員会では、「中部教育学会紀要」第 16 号 (2016 年 6 月発行予定) への投稿論文を受け付けております。投稿の締切は、2015 年 11 月 30 日 (月) (消印有効) となっておりますので、会員の皆様には、ふるってご応募くださいますようお願い申し上げます。研究論文のほかに研究ノートおよび実践報告の投稿が可能となっております。 本会報に編集規程および投稿規程を掲載しておりますので、よくご確認のうえご投稿くださいますようお願いいたします。

原稿を送付される際は、投稿規程第 6 条第 1 項の規定にしたがって、①原稿・英文摘要には氏名・所属を記入なさらないようお願い申し上げます。②原稿・英文摘要とは別に、氏名・所属・連絡先・投稿カテゴリ (研究論文、研究ノート、実践報告の区別を必ず明記してください) を記載した別紙も 1 部ご送付ください。このほか、③印刷時に生じうる技術的な問題を予防するために、機種に依存する特殊文字や、黒字白抜き網かけ、カラーなどは使用しない、④図表の極度の圧縮は行わない、ことをお願い申し上げます。⑤基本的にタイトルの変更は認められませんので (紀要編集委員会が特別に認めた場合は除く)、十分に検討のうえでご提出をお願いいたします。また、投稿規程第 9 条にしたがって、投稿にあたりましては、⑥投稿原稿およびその研究の実施過程において、研究参加者 (実験、聴取調査、質問紙調査、授業研究をはじめとする対

象者) 等の生命、安全、プライバシーその他人権を侵害することがないように、ご配慮をお願いいたします。

原稿送付先

〒464 - 8601 名古屋市千種区不老町
名古屋大学大学院 教育発達科学研究科 山下廉太郎 宛

(投稿論文到着後、事務局より受け取り確認メールをお送りいたします。
事務局より確認メールが届かない場合はメールにてご連絡ください。)

※なお、紀要第 16 号掲載の「特集」については現在、編集委員会にて検討中です。会員への論文募集を行う場合には、12 月の編集会議以降、学会ホームページにて告知する予定です。

会報連載「わたしの教育学研究」投稿募集

会報連載「わたしの教育学研究」では、現在進めている研究の概要や今後の展望、また教育実践や政策動向分析などについて、会員からの投稿を広く受け付けます。掲載希望の会員は、学会事務局まで電子メールにて A4 用紙で 1 ページ (46 文字×40 行) 以内の分量で、ご投稿ください。締め切りは学会会報発行の 2 か月前 (7 月末日、1 月末日) とします。紙面の都合上、投稿者が多い場合などの掲載の可否は事務局にご一任ください。本連載が、会員間の研究交流の機会となることを期待しております。(事務局)

中部教育学会紀要編集規程 (2013 年 2 月 23 日改正)

第一条 「中部教育学会紀要」は中部教育学会の機関誌であり、原則として 1 年に 1 回刊行する。

第二条 「中部教育学会紀要」には本会会員の研究論文、資料、書評、その他会員の研究活動に関連する記事を掲載する。

第三条 「中部教育学会紀要」の編集のために編集委員会をおく。

②編集委員は理事が兼任するものとし、編集委員長および常任編集員若干名を互選とする。

③編集委員会は投稿論文の査読のために必要と認めるときは、会員の中から臨時に査読委員を加えることができる。

第四条 本誌に論文の掲載を希望する会員は、投稿規程に従い、原稿を紀要編集委員会に送付するものとする。

第五条 投稿論文の採否は、編集委員会の合議により決するものとする。

第六条 採用された論文の形式について、編集委員会において若干の変更を加えることができる。ただし、内容に関して重要な変更を加えるときは、執筆者との協議を経るものとする。

第七条 執筆者による校正は再校までとする。採用された論文の内容を校正において修正することはできない。

第八条 論文が採用された会員は、図版等を掲載するためにより特別の費用を要する場合は、投稿者がその実費を負担することがある。

第九条 「中部教育学会紀要」に掲載された論文等の著作権は、本会に帰属する。

第十条 「中部教育学会紀要」は、原則としてその全文を国立情報学研究所が提供する CiNii (Nii 論文情報ナビゲータ) を通じて公開するものとする。

②「中部教育学会紀要」の CiNii での公開は無料とし、CiNii への登載は刊行後 1 年を経過した後とする。

附則 1 第九条・第十条の規定は、「中部教育学会紀要」第 14 号 (2014 年刊行) から適用する。

中部教育学会紀要投稿規程 (2013 年 2 月 23 日改正)

第一条 本会の会員は「中部教育学会紀要」に投稿することができる。

②編集委員会は会員以外の者に執筆を依頼することができる。

第二条 論文原稿は未発表のものに限る。ただし、口頭発表及び配付資料はその限りでない。

第三条 投稿の締切は毎年11月30日とする。

第四条 研究論文の投稿は日本語によるものとし、1行38文字、1頁33行で14頁以内とする。ただし、冒頭に論題等を表示するため、第1頁の本文は20行とする。

②英文タイトルおよび400語程度の英文摘要を本文とともに提出するものとする。ただし、英文はネイティブスピーカー等による校閲を事前に受けること。

③審査用原稿では、投稿者自身の論文等を引用する場合は「拙稿」等とせず、他の著者と同様本名をそのまま記載するものとする。

第五条 研究ノートおよび実践報告の投稿は、1行38文字、1頁33行で10頁以内とする。ただし、冒頭に論題等を表示するため、第1頁の本文は20行とする。その際、英文タイトルを本文とともに提出するものとする。

②その他、投稿の手続き・要領等は、第四条の規定を準用する。

第六条 投稿原稿はワープロを用いて作成し、執筆者の氏名を伏せて4部送付するものとする。その際、投稿原稿とは別に、論題、執筆者氏名、所属、連絡先を送付するものとする。

②論文の採用が決定した場合直ちにワープロで作成した文書ファイルを提出すること。

第七条 注及び引用文献は次のいずれかの方法で表記するものとする。(別紙で示す。)

第八条 投稿者は編集・刊行作業が円滑に行われるよう協力しなければならない。投稿者に編集・刊行作業を著しく妨げるときは、編集委員会は論文の掲載を取り消すことができる。

第九条 投稿者は、投稿原稿およびその研究の実施過程において、研究参加者(実験、聴取調査、質問紙調査、授業研究等の対象者等)等の生命、安全、プライバシーその他他人権を侵害してはならない。

注及び引用文献の表記について(第七条関係)

注及び引用文献は次のいずれかの方法で表記する。

(1) 表記法1

注及び引用文献は、論文末に一括して掲げる。

引用法の例

(論文の場合) 著者, 論文名, 雑誌名, 巻, 号, 年号, 頁。

1) 持田栄一「教育行政理論における『公教育』分析の視角」『日本教育行政学会年報』第1号, 昭和50年, 68頁。

2) Briges, Edwin M., and Maureen Hallian, Elected Versus Appointed Broads: Arguments and Evidence, Educational Administration Quarterly, VIII, 3, Autumn 1972, pp.5-17.

(単行本の場合) 著者, 書名, 発行所, 年号, 頁。

1) 皇至道『シュタイン』牧書店, 昭和32年, 142-143頁。

2) Morphet, Edger L., et al., Educational Organization and Administration: Concepts, Practices, and Issues(4th ed.), Englewood Cliffs, N.J.: Prentice-Hall Inc., 1982, p.160.

(2) 表記法2

1) 引用文献と注を区別する。注は文中の該当箇所に、(1)(2)……と表記し、論文原稿末尾にまとめて記載する。

2) 引用文献は本文中では、著者名(出版年)、あるいは(著者名, 出版年)として表示する。同一の著者の同一年の文献についてはa, b, c……を付ける。

例: しかし、市川(1990)も強調しているように……

……という調査結果もある(桑原1990a, 1990b)。

OECDの調査によれば「……である」(OECD 1981: pp45-46)。

3) 引用文献は、邦文、欧文を含め、注のあとにまとめてアルファベット順に記載する。著者、(年号)、論文名、雑誌名、巻、号、頁。

例: Holmberg, B.(1989) Theory and Practice of Distance Education, Routledge, pp.182-189.

木田宏 (1989) 『生涯学習時代と日本の教育』 第一法規。

Murnane, R. J and Cohn, D. K (1986) Merit pay and the evaluation problem : why most merit pay plans fail a few survive, Harvard educational Review, vol. 56(1),pp.1-7.